

科目名	情報文化	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	鈴木 聖二		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-A-1-110021	経営情報学部C：情報や情報システムの活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的	<p>情報があふれかえっている現代社会で、信頼できる情報とは何か？新潟日報社の協力のもと、情報の発信者である新聞記者ら（毎回違う部署の人）を招いて、より信頼できるといわれている新聞がどう作られ、発信されているかを語ってもらい、情報に対してどのように接すればいいかを学ぶ。また、世の中の動きに対してどのくらいの知識を持っているのか、情報の入手の仕方、情報に対する考え方等を問う。なお、この授業では毎回、出席確認の意味も込めて、何らかの課題を与えて文章を書いてもらう。その内容も成績評価の一部となる。新潟日報からの特別講師の内容については未定。</p>				
学修到達目標	<p>新聞社の実情及びどうやって情報が発信されるかを知ることにより、的確な情報処理ができるようになることを目指す。</p>				
実務経験との関連性	<p>新聞社勤務で得た経験（取材、執筆等）を授業に生かす。</p>				

授業計画	
第1回	講義の進め方などガイダンス的なもの
第2回	新聞とはどういうものか（新聞学総論）
第3回	論説編集委員-新聞の顔ともいわれている社説だが、どんな人間が、どんな基準で「論」を展開しているのだろうか？

第4回	報道部幹部-地方紙として県民にどのような姿勢で情報を発信しているのか？
第5回	報道部デスク-取材とは…。どうやれば話を聞き出すこつは？
第6回	報道部記者-取材したものをどう記事にするか。人に伝える文章とは？
第7回	中間まとめ①
第8回	運動部長-スポーツ取材の現場は？
第9回	写真部長-報道カメラマンとその現場
第10回	読者投稿欄（窓）者-読者と最も近い投稿欄について
第11回	デジタル推進部-新聞社のデジタル対応について
第12回	中間まとめ②
第13回	整理部-記事を読ませるための見出し、レイアウトとは

第14回	広告部-メディアにおける広告とは
第15回	販売部-直接読者の反応に向かい合う
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習 2 時間＝新聞を熟読する
【復習】時間・内容	復習 2 時間＝前回授業での疑問点等を整理する

成績評価	
評価基準・方法	定期試験35%・授業態度・授業への参加35%、関心意欲20%、表現10% まず話を聞くことが大前提となるので、出席を最重視する。「知識・理解」「思考・判断」もさることながら、自らの思いを正確、簡潔に文章でどう伝えるか（文章力）、質疑等で積極的な発言（関心・意欲）も重視する。
フィードバック方法	授業の最後に毎回、出席確認を兼ねてコメントカードを提出してもらおう。その内容も評価の対象となる。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	

教科書/参考書	<p>特段不要だが、毎回その日付の新潟日報朝刊を配布する予定。授業によってはその日の紙面を題材にする場合もある。当日配布する新聞は教科書であり、必ず持っていくこと。</p>
受講上の留意点等	<p>新潟日報から講師を招く場合は前半1時間の講演の後、後半30分を質疑に充てる。日ごろ取材に当たっている記者に取材する気持ちで積極的に発言することを求める。取材イコールコミュニケーションと考えてもらいたい。自宅で新聞をとってなくても図書館などで出来る限り新聞を読むようにする。なお、前掲の講義内容は前年のもので、外部から講師を呼ぶ関係上、相手方の都合により変更がありうる。</p> <p>なお、この講義は2019年度までの「コミュニケーション技術（廃止済）」と内容的に重複する部分があるため、受講に際しては留意すること。</p>
JABEE	